

トピックス



中央区総合防災訓練

9月1日、京橋地域で総合防災訓練が実施されました。今年、女性などに配慮した避難所運営訓練や帰宅困難者対応訓練のほか、負傷者のトリアージや医療救護訓練も行われ、参加した皆さんは、災害に備え、お互いに声を掛け合いながら積極的に取り組んでいました。



▲昨年の「まち歩きツアー」(伝馬町牢屋敷の模型見学と周辺散策)の様子

中央区新発見!

「まち歩きツアー」

参加者募集

決定通知方法
開催日の9月14日前までに、返信用はがき、またはメールで参加の抽選結果を通知します。
※申込(問合せ)先

中央区観光協会ホームページの「まち歩きツアー」参加者募集!!からも申込みます。
〒104-0061
中央区銀座1-25-3 京橋プラザ3階
中央区観光協会「まち歩きツアー」係
☎(6228)7907
観光協会ホームページ
http://www.chuo-kankei.or.jp

中央区観光協会では、今年も更に充実して「まち歩きツアー」を実施します。

「中央区大好き!」なボランティアの案内で楽しみますので、ぜひご応募ください。

実施期間
12月7日(土)まで

実施概要
中央区文化財サポーターが案内する「文化コース」、「まごミュージアムコース」、中央区観光協会特派員が案内する「産業コース」の計3コースがあります。

詳しくは別表のとおり
◎コースにより参加条件がありますので注意事項をご確認の上、申込みください。

参加費
無料

応募方法
中央区観光協会が発行する募集チラシに掲載している専用はがきまたは往復はがきに、

①希望コース名 ②実施日時 ③参加者の氏名・ふりがな ④住所 ⑤年齢 ⑥緊急連絡先を記入(専用はがきの場合は往信・

別表

コース名	実施日・開始時間	引率	定員	締切日(必着)		
文化コース	●歩いて学ぶ芝居の歴史 京橋跡・新富座跡・築地小劇場跡・森田座跡・歌舞伎座など	10月20日(日)	文化財サポーター協会	各15名	10月10日(木)	
	●潮句う隅田川の分岐点 月島駅・佃島渡船場跡・石川島灯台・タイタニックデッキ・石川島造船所跡・相生橋など	11月9日(土)			10月30日(水)	
	●江戸名所大川端・浜町河岸・両国広小路を訪ねる 浜町公園・浜町河岸・薬研堀不動院・両国広小路跡・郡代屋敷跡など	11月24日(日)			午後1時30分～3時	11月14日(木)
	●銀座で開運?!稲荷巡り 京橋跡・幸稲荷・朝日稲荷・宝童稲荷・あづま稲荷・豊岩稲荷など	12月7日(土)			11月27日(水)	
	●お江戸日本橋七ツ立ち 日本橋・名水白木屋の井戸跡・江戸秤座跡・歌川広重住居跡・京橋跡など	①10月5日(土) ②12月1日(日)			①9月25日(水) ②11月21日(木)	
まごミュージアム	●ハイカラ銀座、八丁歴史散歩 京橋跡・銀座ガス灯通り・銀座発祥の地・和光・金春屋敷跡・新橋跡など	11月4日(休)	文化財サポーター協会	各15名	10月25日(金)	
	●江戸・日本の出発点!日本橋を巡る 日本橋・一石橋・日本銀行本店本館・三井本館・日本橋など				①午前10時～11時30分 ②午後1時30分～3時	
	●江戸情緒たっぷり～人形町・甘酒横丁を歩く 浜町公園・明治座・甘酒横丁・大観音寺・旧芝居町跡・小網神社など					
	●築地居留地と隅田川テラスを歩く 築地本願寺・蘭学事始地・聖路加国際病院・隅田川テラス・勝鬃橋など					
産業コース	●老舗コース① 日本橋の老舗3店「木屋」「山本海苔店」「文明堂」で、お店の歴史や商品の裏話を聞く	11月5日(火)	中央区観光協会特派員	各10名	10月25日(金)	
	●老舗コース② 江戸時代創業の老舗3店「にんべん」「榮太樓總本舗」「山本山」で、お店の歴史や商品の裏話を聞く	10月15日(火)			10月4日(金)	
	●老舗コース③ 江戸時代創業の老舗「江戸屋」「小津和紙」「伊場仙」でお店の歴史や商品の裏話を聞く	11月19日(火)			11月8日(金)	
	●築地場外市場コース 場外市場で人気の老舗店「正本」「つきぎ松露」「紀文食品総本店」「吹田商店」で、商品にまつわる築地の話を聞く	①10月17日(木) ②11月7日(木)			①10月7日(月) ②10月28日(月)	
	●銀座画廊コース③ 銀座の画廊「銀座柳画廊」「至峰堂画廊」「日動画廊」で絵画に親しみ、絵と画廊の裏話を聞く	11月21日(木)			11月11日(月)	

◎各コースとも、所用時間は約2時間程度を予定しています。すべて徒歩での移動となります。
◎天候、店舗の都合などにより訪問先が変更になる場合があります。
◎その他、詳しくは申込チラシおよび中央区観光協会ホームページをご覧ください。



▲智泉院の天水鉢

日本橋茅場町にある天台宗寺院・智泉院は、日枝神社の境外摂社(千代田区永田町二丁目)の本社に付属して境外に祭られた神社が鎮座するすぐ裏手(道路を挟んで東側)に建立されています。江戸時代の地誌類をひもとくと、現在の摂社日枝神社は、寛永年間(1624～1644)に「山王御旅所」(山王権現祭礼の際に神輿が渡御して鎮座する場所)と定められ、同御旅所内には、別当寺号は醫王山智泉院として「薬師堂」(山王権現の本地仏である薬師如来を安置)が建立されていました。茅場町の夕薬師や夕薬師袖へ入日ハうしろからなどの句が示すように、薬師の縁日(毎月8日・12日)には夕方から多くの人が参詣に訪れ、門前に盆栽・植木を商う市も立ち並んでにぎわいました。その後は、明治初年の神仏分離(神仏判然令)政策に

この天水鉢は、江戸の人々から茅場町の薬師様と呼ばれて篤い信仰を集めていた往時の歴史を物語るとともに、区内に現存する釜七造の貴重な名品といえるでしょう。
中央区主任文化財調査指導員 増山一成

よって御旅所内から独立し、関東大震災後の区画整理などを経て現在地に至っています。さて、今回の文化財は、智泉院に現存している江戸時代の天水鉢について紹介されます。この天水鉢は、境内に祭られている地藏菩薩立像の前に左右一対(2基)の形で置かれています。2基ともに基壇や台座などはなく、高さ94センチメートル・上縁外径97センチメートルほどある鉄製の鋳物です。

天水鉢(桶)とは、防火用に雨水を蓄えておく容器として、江戸時代には屋根の上・軒先・町角などに置かれました。明治以降は、消防設備の近代化に伴って使われなくなりまして、現在でも寺院の軒先などにある奉納物の天水鉢を目にするのが出来ます。智泉院に伝来する天水鉢は、「奉納者」「奉納年月」「鋳物師(金属製品を製造する技術職人)銘などが陽鏝されたシンプルなものです。銘文によれば、山王御旅所の西側に位置する坂本町(現在の日本橋兜町)の有志が、天保12年(1841)4月に奉納したもので、他に世話人8名の銘も施されています。なお、鋳造者には、深川上大島町(現在の江東区大島)に工房を構えていた高名な鋳物師・釜屋七右衛門(通称「釜七」)の銘が確認できます。

智泉院の天水鉢は、寛永年間の撰社日枝神社は、寛永年間(1624～1644)に「山王御旅所」(山王権現祭礼の際に神輿が渡御して鎮座する場所)と定められ、同御旅所内には、別当寺号は醫王山智泉院として「薬師堂」(山王権現の本地仏である薬師如来を安置)が建立されていました。茅場町の夕薬師や夕薬師袖へ入日ハうしろからなどの句が示すように、薬師の縁日(毎月8日・12日)には夕方から多くの人が参詣に訪れ、門前に盆栽・植木を商う市も立ち並んでにぎわいました。その後は、明治初年の神仏分離(神仏判然令)政策に

区民有形民俗文化財
日本橋茅場町一丁目
5番13号 智泉院

智泉院の天水鉢

ちょっと知っ得 / 区内の文化財